

日 時：平成28年5月27日（金） 午後2時～3時30分

場 所：旭川市障害者福祉センターおびつた

出席者：構成員 19名

菅野，堤氏，堀井氏，蟹谷氏，中田氏，本間氏，矢野氏
（代理），山内氏，東氏，佐藤氏，馬場氏，森田氏，梅本
氏，小野寺（代理），越原氏，田中氏，秋山氏，辻榮氏，
砂田氏

事務局 5名

都市計画課長 富岡 ほか4名

関係者 3名

旭川中央ハイヤー（株） 伊東氏

（一社）北海道開発技術センター 大井氏

旭川市環境部新エネルギー推進課 佐藤主査

傍聴者 4名

1 開 会

2 議 事

1) 平成27年度 事業結果及び決算，平成28年度 事業計画（案）及び予算（案）について

- ・資料1-1, 1-2をもとに，事務局より，平成27年度の事業結果及び決算について説明。公共交通マップの印刷・全戸配布について指名競争入札を行った結果，積算より有利な金額で契約できたため，当初予算と比較して，支出・収入とも80万円程度低い決算額となったことを報告。
- ・資料2の会計監査報告書をもとに，馬場監事より，平成27年度収支決算について，適正に処理されていることが報告された。
- ・資料3-1, 3-2をもとに，事務局より，平成28年度 事業計画（案）及び予算（案）について説明し，その後，構成員から意見。

構成員（学識者）そろそろ全体の方向性を確認するということが必要になってきたかもしれない。

人口減少で公共交通が厳しい状況に追い込まれてきたことや，情報化の進展が相当進んでいることについて考えてもらったほうが良い。谷島さんの話を聞くことはバスシステムの向上に役に立つと思う。

イギリスでスマートシティについての議論を40人くらいとしてきたが，日本の情報化がかなり遅れていることがわかった。

ウーバーというシステムは，5年，10年経つとかなり浸透すると思う。情報社会の中で，タクシー業界が止めようとしても止められないところまで来ているのが海外の状況である。教え子の大学生も，アメリカで利用してとても便利だったと言っており，中国でも事

前に登録しておけば、空港を降りるとすぐにウーバーを使ってどこでも行けるという状況に発展している。世界的に情報システムを使った流れが進む中で、日本が取り残されつつある。

ソーシャルキャピタル、社会関係資本として、人々がそれぞれ持っている、空いている時間や車両を有効活用するという流れが必ず来るはず。これまでタクシーが無かったような地域も、それによって生存権、生活権が保障されるようになる。

これまでデマンドを運行していた地域でも有効だと思う。タクシーとの折り合いをどう付けるかという問題もあるが、大事なシステムが今、出てきている。

アメリカ、中国などでは、当たり前に使われているものなので、そのところは認識しておいたほうがよいと思う。

都市計画については、マサチューセッツ工科大学の人に話を聞いたが、計画策定への住民参加に、コンピューターを大量につかって、全ての情報を図化している。日本の都市計画は何と遅れていることかと思った。情報が世界を変え始めているので、そこは都市計画も覚悟を持ってかかっているとならない時期に来ている。

会 長) 構成員から情報化について意見をいただいた。事務局は意見をよく踏まえて事業を進めてほしい。

※事務局報告のとおり承認

2) 本年度の地域協働推進事業について

- ・資料4をもとに、事務局より、3ヵ年計画の最終年度である本年は、これまでのモビリティマネジメントの経験をまとめる形で、旭川市版モビリティマネジメントマニュアルを作成することを説明。
- ・そのため、これまでの経験を活かす意味でも、昨年度、一昨年度と、本事業を受託した（一社）北海道開発技術センターと本年度も随意契約を交わしたい旨、事務局より構成員の了承を求めた。

※事務局説明のとおり承認。

3) 生活交通改善事業計画（バリアフリー化設備等整備事業）について

- ・資料5をもとに、旭川中央ハイヤー（株）より、ユニバーサルタクシーの導入計画について説明。その後、質疑。

構成員（学識者）ユニバーサルタクシーの導入が進むのは良いことだと思う。一方、空港からの連絡バスのノンステップ化は、国の制度が遅れたこともあり、ようやく羽田に導入されたところである。

空港バスのノンステップ化について、今後、どのように努力していくのかという展望を、この交通会議で描いておかないと、なかなか進んでいけないと思う。

会 長) 地域振興部は空港を所管しているが、確かに空港からのアクセスのバリアフリー化は課題である。

構成員（バス事業者）前回の会議でノンステップバス3台の導入を報告したが、そのうち2台を

旭川空港線に投入する方向で社内決定した。

構成員 1) それは非常に良いことだと思うし、他の空港でそこまでやっているところは少ない。東京でもまだ貧しい状況なので、宣伝しても良い取り組みである。

また、ユニバーサルツーリズムを推進するにあたって、リフト付の観光バスが不足している状況である。ぜひその辺の準備も進めていくことをお願いしたい。

会 長) 本市としては交流人口をできるだけ増やしていきたいということもあるので、いろいろな場面でそういったことは議論されると思う。

※事業者の計画案について承認。

4) 旭川市生活交通ネットワーク計画について

- ・資料 5-1, 5-2 をもとに、事務局より、米飯地区のデマンド交通について、平成 28 年度（平成 28 年 10 月 1 日から平成 29 年 9 月 30 日）の運行計画である旭川市生活交通ネットワーク計画について説明。
- ・計画の内容は基本的に前年度を踏襲しているが、定量目標については、これまでの 3 年間、手探りで設定を行ってきたが、人口減少地域であることを考えると、過大な目標設定となっていたため、本年度は前年度比 5% 増としたことを説明。
- ・また、当該路線は本地域にとって唯一の公共交通であるため、旭川市生活交通路線とすることについて交通会議の承認を求めた。

構成員（学識者） 定量目標も必要だが、人口が減少する中で、地域住民のモビリティがどの程度確保されているかといった指標も重要である。

会 長) 米飯地区は、農業地域として経済的にも重要な地域である。地域の住民が安心して暮らせる環境を用意することが必要だと思う。

構成員（学識者） 今は補助金、交付金によりデマンドを運行しているが、住民の人たちから空いている時間を協力してもらい、ソーシャルキャピタルによって、地域の交通を支える方法を編み出していくことも考えていただきたい。

会 長) そういった意味ではコストや継続性といったことが重要になってくると思う。

※計画案及び生活交通路線に位置づけることについて了承。

5) 各種報告

旭川市から 3 点報告

- ・都市計画課より、バスロケーションシステム導入調査事業の結果について報告。
※会長より、先日のユジノサハリンスク市長来訪の際、公共交通を視察し、本市の事業者が市民目線に立っているとの感想があったとの話が紹介された。また、バスロケーションシステムの運用はバス事業者の手に移ったが、外国人対応なども含め、発展させてほしいとの発言があった。
- ・地域振興課より（都市計画課担当者が代理報告）、旭川駅前広場について、今後、駅周辺の公共交通の案内版の設置を検討している旨を報告。

※バス事業者より、情報更新のしやすさを考えると、デジタルサイネージ型の案内板を導入することも検討できるのではないかと提案があった。

※これに対し学識者の構成員から、近年の情報技術の発達は著しく、そうした最先端の研究を行っている技術者とも交流があるため、必要があれば紹介することもできるとの発言があった。

- ・新エネルギー推進課より、本年度、CO₂を減らす「34万人のクールチョイスキャンペーン」を行っていくとの話があり、その際、公共交通の利用促進も重要な要素であるため、地域協働推進事業で行うワークショップとの連携や、公共交通会議の構成員の皆さんにもぜひ協力をお願いしたいとの要請があった。

また、エコ通勤事業についても、参加事業所を求めているとの説明があった。

※学識者の構成員から、必要があれば評議員を務めている環境教育系の財団の補助金を活用することもできる旨の話があった。

3 閉 会

事務局) 次回の交通会議は本年度、秋の開催を予定している。

以上